

## 第一回「先端的リング型光源計画特別委員会」議事録

日時 : 平成 17 年 10 月 28 日(金) 13:30~16:30

場所 : 八重洲ダイビル 第 2 会議室

出席者 :

委員長 雨宮 慶幸 (東大)

足立 伸一 (KEK)、河田 洋 (KEK)、熊谷 教考 (JASRI)、

高田 昌樹 (JASRI)、田中 均 (JASRI)、中川 敦史 (阪大)、

羽島 良一 (原研)、村上 洋一 (東北大)、若槻 壮市 (KEK)

オブザーバー : 尾嶋 正治 (東大)、下村 理 (会長)、澤 博 (学会渉外幹事)

### 1. 特別委員会の設置の経緯・ミッションについて

設立の経緯説明 ; 次世代光源検討特別委員会の提言の中のリング型光源に関する記述を受けて設置した。一年程度の議論に基づく答申を想定。

### 2. 今後の委員会の進め方に関する議論

- 1) 1年間で3、4回は開催し、2006年12月までに纏め、2007年1月の放射光合同シンポジウムで報告する。
- 2) 10年後の日本の放射光関係の学問的な基盤として、我が国のグランドデザインの議論をすべきである。
- 3) 先端的リング型光源の提案は施設の将来計画ではあるが、放射光コミュニティーとしての立場での議論を同時進行させることがミッションである。
- 4) 各施設の状況報告はこの委員会の議論のデータとしては必要であるが、本委員会の報告に含まれるものではない。
- 5) 委員会のミッションとしては、財政当局への要求として具体的な性能・規模などをコミュニティーとしての提言することと、各施設の計画に対してそれが学問的に十分高い到達目標を持っているかどうかユーザーとしての立場を明らかにすることの両面がある。

### 3. 委員会の委員構成に関する議論

分野でバランス、若手、産業界などを考慮して、以下の5人を追加。

光源加速器 : 坂中章吾 (KEK)

光学系若手 : 雨宮健太 (東大)

VUV・SX 若手 : 関山明 (阪大)

産業利用 : 西島和三 (持田製薬)・古宮聡 (JASRI)

### 4. 先端的リング型光源計画の現状の紹介

(太田委員会での発表をベースに紹介)

(1) 物構研・原研の計画 (河田・羽島)

個別の計画であったが一つにまとめた。

(2) SPring-8 の計画 (熊谷)

SPring-8 の多様な高度化の可能性の紹介

(3) 東大の計画 (東大 Outstation 計画) (若槻、尾嶋)

東大リングの計画は既存施設を利用した Outstation 計画に変更された。

VUV・SX と構造生物、構造物性の分野を網羅した形での計画の予定。

## 5. 上記の紹介に対する質疑応答、および議論

- 施設の高度化とコミュニティーの要求とのすり合わせの議論と歩調を合わせて進めていく必要がある。但し、予算的な話とのタイミングとも合わせながら進めなければならない。
- コミュニティーの要求と施設の計画とは必ずしも一致する必要はない。
- Science の軸で議論を進める姿勢が必要であり、その議論の方向で施設がどのように応えていくかは施設側の問題。
- 3 種類の話の中で、10 年後を見据えた形で新しい施設を考えるときに、Outstation の定常的な運営と SPring-8 の高度化が終了しているという境界条件で、新しい施設がなぜ必要であることを財政当局に要求するためにはどうしなければいけないか？という議論を行っていく。
- PF の後継機という形では予算はつかない。先端的な要素を入れ込んだリング計画にしなければならない。先端性と謳った光は何であるのかはコミュニティーから発信していくべきである。一方、建設が終わったときに産業界や多くのユーザーが利用できるビームラインがないという汎用性からの観点にも考慮すべき。
- 汎用的な利用についての運営は例えばアジア地区での放射光施設での有効利用という考え方もある。

次回は合同シンポジウムに併せての開催を予定。